

第 部門 高齢者の自転車利用の実態に関する研究

大阪工業大学工学部 学生員 ○草開 久順
 大阪工業大学工学部 学生員 平井 剛士
 大阪工業大学工学部 正会員 岩崎 義一

1. はじめに

(1) 背景と目的:急速に進行している高齢化社会における都市空間の整備は、都市化の潮流が成熟してきた中で、その重点項目が改めて確認される必要がある。そこで、本研究では高齢者の安全な外出を可能とする都市整備の方途を考えることとし、とりわけ頻度的に高い高齢者の自転車利用の実態について明らかにする。(2) 方法: 自転車を利用している高齢者に聞き取りによるアンケート調査 (実施日 2005 年 9 月 1 日～9 月 14 日、サンプル数 102 件、大阪府下の主要な公園 7 ヶ所) を実施した。

2. 外出行動と道路への危険意識の特性 (1) 外出行動: 外出目的別回答件数構成比(図 2-1)を見ると 1 位・2 位を合わせた全体では散歩(40%)が最も高く、次いで買い物(21%)、病院(19%)の順になっている中で、1 位のみを見ると散歩(52%)が著しく高く、全体で 2 位・3 位であった買い物・病院は低くむしろ遊び(28%)が高くなっており、2 位のみを見ると 1 位で低かった病院(31%)、買い物(29%)が高い。つまり自転車での外出は散歩や遊びなど、目的が不明確な場合の外出が主で、病院や買い物など目的が明確な場合の外出が従であることが分かる。

自転車の走行にかかる所要時間別回答件数構成比(図 2-2)をみると 30 分までの短時間内の移動が極めて高く、走行距離においても 3 km 以内の近距離が高いことが分かった。このことから高齢者にとって自転車は目的地に行く際の手軽で重要な交通手段であると言える。

自転車の利用理由別回答件数構成比(図 2-3)をみると、「遠くへ出かけられること」という理由が一番多かった。特に女性は「買い物時に荷物を持たなくても済むから」という理由が高かったことから、自転車は移動性に優れ、物を運ぶのに便利な交通手段であると言える。

自転車利用における経路選択理由別回答件数比(図 2-4)をみると、周りに樹木が多い道(27%)と整備のしっかりした安全な道(26%)が高かったことから、高齢者は自転車経路に周囲の自然の有無と安全性を求めている。

(2) 障害物への危険意識: 高齢者が危険に感じる障害物構成比(図 2-5)をみると、放置自転車(61%)が極めて高く、次いで商店の看板・旗(16%)、駐車車両(8%)となっていることから一般市民の自転車や自動車の駐車マナーに対する意識が低いと言える。

全体的に見ると、交通付帯施設、乱暴な運転をする自転車などマナーのない人の行動が引き起こす危険の順に危険視されている。

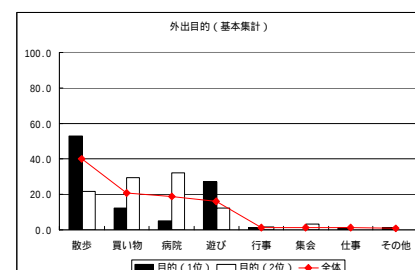


図2-1 外出目的別回答件数構成比

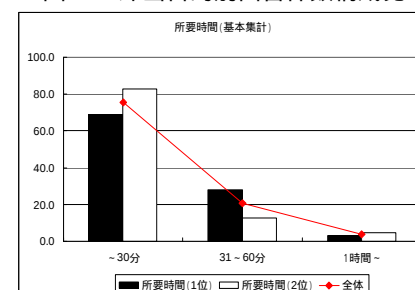


図2-2 外出所要時間別回答件数構成比

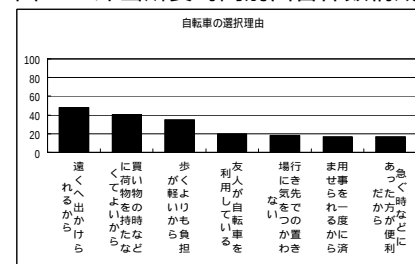


図2-3 自転車利用理由別回答件数構成比

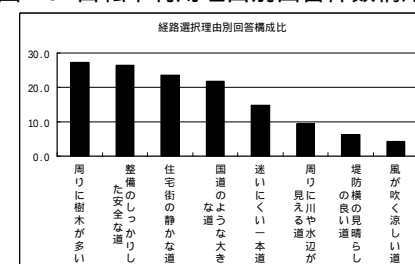


図2-4 経路選択理由別回答件数構成比

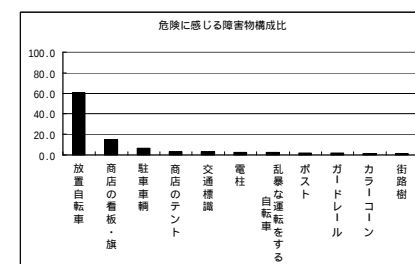


図2-5 危険を感じる障害物構成比

3. 経路選択の意識構造分析

自転車利用による外出の所要時間に影響する要因を経路選択理由の中から数量化2類分析により評価する。1軸のレンジ値は、「風が吹く涼しい道」と「堤防横の見晴らしの良い道」が大きい。これより1軸は経路選択の際に爽快で広々とした道を意識している軸と考えられる。2軸で、「風が吹く涼しい道」と「周りに川や水辺が見える道」が大きく、周囲の自然を意識した軸と考える。これらのことから、爽快さや自然環境などの経路の要因が自転車の外出所用時間に影響を与えていることがわかる。

4. 外出経路の特性

自転車の経路選択理由を集計してみたところ、高齢者は自転車で走行する道に周囲の自然の有無と安全性を強く求めており、また「堤防横の見晴らしの良い道」や「周りに川・水辺がある道」など水面環境などを意識した経路が選ばれていることが分かった。

そこで、この回答をした高齢者の経路マップ(図4-1)を見ると、樹木がある公園を中心に主要な川の河川敷・堤防の道、小さな川の近くの道と言った水に関連している経路を通っていることが分かる。

このことから、経路選択の意識と実際の経路利用に高い整合性が認められる。

5. 総括

今回の研究により高齢者の自転車利用の実態として以下のことを明らかにした。

目的で1番多かったものは散歩であったが様々な目的に使用されている。これより、高齢者にとって自転車は負担が軽く遠くへ出かけられることにより、娯楽的な目的から生活に欠かせない目的まで様々な用途に利用されていること。高齢者が危険に感じる障害物は、放置自転車のような一般市民のマナーの無さが起こす危険から交通付帯施設まで様々存在していること。自転車による外出の所要時間は、爽快で広々とした道や自然の有無などの経路選択が影響を与えていること。高齢者の自転車経路選択には緑や水と言った自然が大きく関わっていること。

これらをふまえて、今後、高齢者の自転車利用に対応した都市整備を行う際には、樹木や川など自然が多く存在する道の整備や放置自転車の抑制など安全対策が急務といえよう。

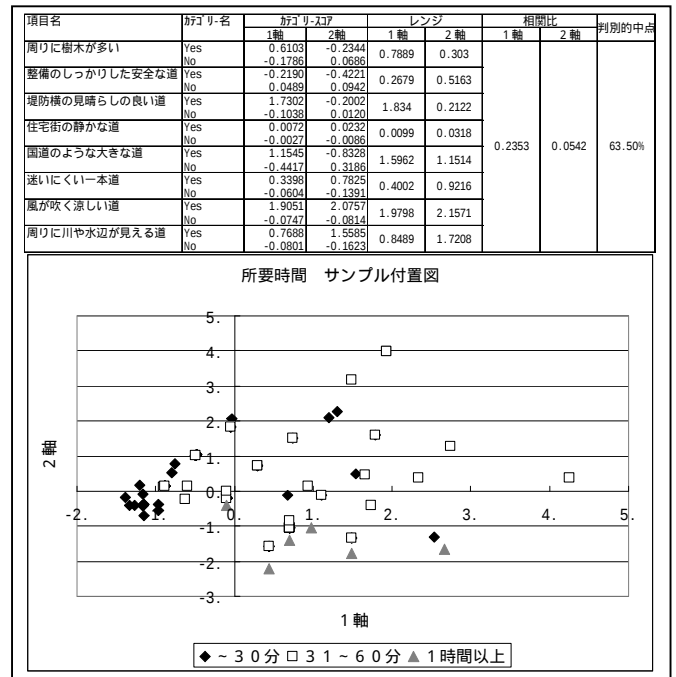


図3-1 カテゴリースコアグラフ・サンプル付置図

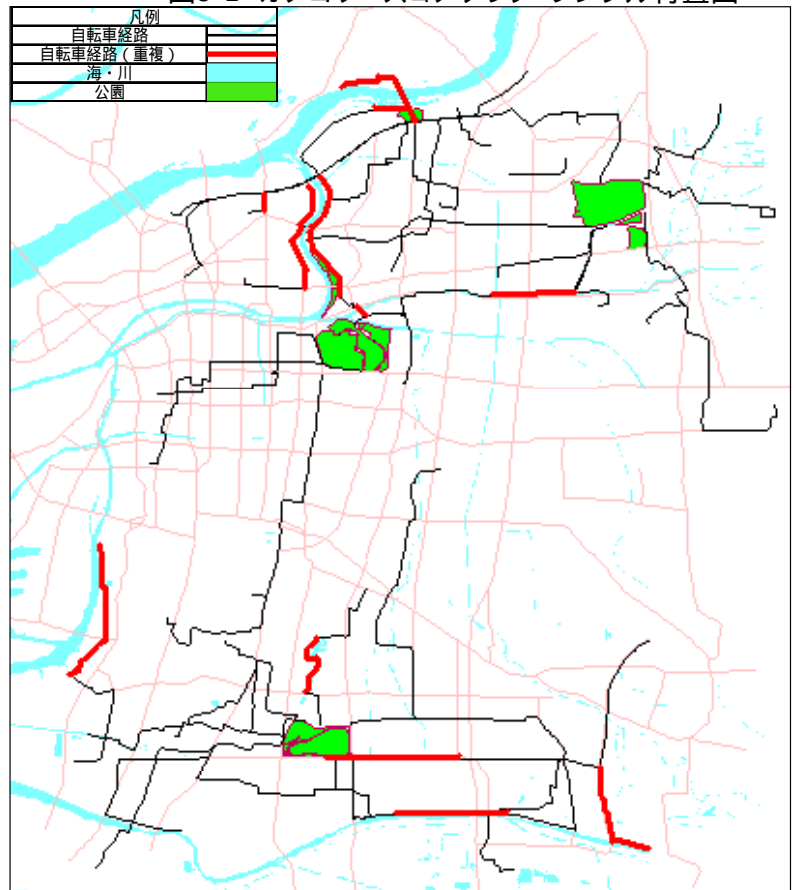


図4-1 自転車経路マップ